

平成18年度後期・1年長期研修成果報告会

教育経営研修課

平成18年度後期・1年長期研修成果報告会が3月14(水)、15(木)、16(金)の3日間開催されました。今回は本館講義室を中心に、IT教育棟大講義室、産業教育棟情報応用室の3会場で行い、後期研修員42人、1年長期研修員37人、計79人が発表しました。発表内容は各自のテーマに基づき、今日的教育課題解決のための意欲的で熱意が伝わるものであり、どの会場においても活発な質疑がなされました。

本センターでの長期研修は「今日的教育課題を解決、改善していくために、教科・領域に関する理論及び実践力の向上と文化的教養の深化を図り、

使命感を持った積極的な人材を育成し、学校教育の活性化と発展に寄与する。」研修として位置づけられております。先生方は、4月及び10月以来、「研修計画検討会」や「中間検討会」、そして「研修成果報告書検討会」を経て、最終的なまとめを行いました。

研究成果が、単なる発表で終わるのではなく、今後、学校現場でどのように生かされ児童生徒の心をとらえるのが重要と言えます。

本報告会を「これからが始まり」としてとらえ、研修や研究の成果を児童生徒に還元できるよう期待しています。



*****もくじ*****

● 平成18年度後期・1年長期研修成果報告会	-1-
● 県立総合教育センター研究発表会～学び意欲を高める指導方法の改善・充実をねらう学校教育の創造～	-2-
● 平成18年度移動教育センター共同研究(宮古・八重山) 歩み～県内適応指導教室活動展示・報告会～	-3-
● 特別支援教育に係る関係機関への支援状況 第31回全国特別支援教育センター協議会沖縄大会の開催(予定)	-4-
● 美ら島e-net(遠隔学習)システム 教材開発一覧	-5-
● 環境教育に取り組もう 爽やかな水の音(水車復活!)	-6-
● 新システム導入 講座紹介「溶接検定対策講座」 特別講演会	-7-
● 研修を終えて(平成18年度 長期研修員)	-8-

県立総合教育センター研究発表会

～学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実をねらう学校教育の創造～

教科研修課

平成18年度本総合教育センター調査研究事業の研究発表会が去る2月14日に本センターの講義室、各研修室で学校関係者、本庁、市町村教育委員会等の教育関係者多数参加の下、開催することができました。

本年度の調査研究は、学校教育の充実と各学校の課題に資する目的で、昨年度から継続して「学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実をねらう学校教育の創造」の統一テーマの下、プロジェクト研究、課内共同研究、個人研究・協力員共同研究、移動教育センター共同研究の4つの柱で進めてきました。

第1部の全体会では、プロジェクト研究、特殊教育課とIT教育課の2本の課内共同研究の計3本の発表、第2部の分科会では他の課内共同研究と個人研究・協力員共同研究(29)の発表がありました。以下、第1部におけるプロジェクト研究と課内共同研究の発表内容を紹介します。



又吉所長のあいさつ

『プロジェクト研究』

研究テーマ

「学ぶ意欲を高める学習指導の支援」
一高等学校における学習指導の手引き一

発表者：高安美智子（教科研修課）

津波古廣和（IT教育課）

前半の高安美智子主事による発表は、「生徒に身に付けさせなければならない力」や「生徒の学習意欲の向上」のためにこれからの教師に求められる力量とはどのようなもの



発表の様子

か、新しい評価の在り方やキャリア教育の視点に立った教科指導等、あらゆる角度から教師の授業力を高めるための方策を提言しました。

後半の津波古廣和主事の発表は、学習指導の改善・充実に向けた具体的な支援として「学習指導のための情報検索」や「パソコンを活用した自己学習教材」等、ITの活用の仕方を紹介しました。本研究における学習指導の手引きは、幼・小・中学校の教師を含め全ての教師にとって参考になる資料ですので是非活用して頂きたいと思います。

『課内共同研究』

研究テーマ

「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導方法の工夫改善について」
一学校支援のための特別支援教育資料集の作成を
ととして一

発表者：大城政之（特殊教育課）

「学校教育法等の一部を改正する法律」が施行され、平成19年度から特別支援教育が本格的に実施されます。各学校の教師への情報提供や指導方法等の工夫改善に役立つ研究内容でした。また、特別な支援を必要とする児童生徒のために支援資料を作成して、平成19年度に各学校に配布する予定です。

研究テーマ

「児童生徒の学習を支援するIT活用に関する研究」

発表者：安和守光、和田 博（IT教育課）

ITを効果的に活用した教育についての研究や普及、そして児童生徒の学習を支援するためのe-Learningシステムについての発表などがありました。



課内共同研究の発表者

プロジェクト研究、課内共同研究(6本)、個人研究・協力員共同研究(29本)の研究内容は県立総合教育センター情報共有システム <http://www.open.ed.jp/> で公開しています。

平成18年度移動教育センター共同研究(宮古・八重山)

～ 研究成果報告会より ～

教科研修課

平成18年度移動教育センター共同研究(宮古・八重山)の成果報告会が平成19年1月18日(木)＜八重山地区＞、1月19日(金)＜宮古地区＞にそれぞれ開催されました。今年度は「へき地教育」と「小学校英語活動」の2分野について、研究報告がありました。

宮古地区の研究成果報告

宮古地区の「へき地教育」研究部会は『伝え合う力』を身に付けさせる国語科複式学習指導の工夫(副題:場の設定や「書くこと」を意識した教材・



書くことを意識した学習活動

教具の工夫)を研究テーマに、今年度は昨年の研究を引き継ぎ、「書くこと」を意識した活動を取り入れながら「伝え合う力」の高まりを期待する研究を推進してきました。検証授業では相田みつお氏の詩の教材を活用し、児童の興味関心を引き出し、「書くこと」を意識した教材・教具を取り入れていました。

授業展開中に異学年合同の発表の場を設定し、児童が意欲的に学習に取り組み、互いの意見や感想を交流していました。

また、「小学校英語活動」研究部会では「小学校英語活動におけるコミュニケーション能力の育成」(副題:タスク活動を中心とした単元開発を通して)を研究テーマに「聞いたり、伝えたりする必然性のある活動」をタスク活動として授業設定し、その単元開発と実践を紹介していました。



歩 み

～県内適応指導教室活動展示・報告会～

県適応指導教室連絡協議会は、適応指導教室相互の連携を密にし、指導内容・方法の充実を図る目的で平成10年に発足しました。毎年、講演会や適応指導教室担当者等研修会(年2回)を行っており、教育相談研究室が、その事務局を担当しています。「活動展示・報告会」は、「日頃の活動の報告・作品の展示をすることで文化的交流を深め、お互いの活動の成果を認め合うことで自信を持ち、日常生活の行動意欲を高める」ことを目的として、去る11月8日に初めて実施しました。

離島を除く適応指導教室の児童生徒が集まり、日頃の活動の中で取り組んだ絵画や折り紙等、様々



フィンガーペイントの様子

八重山地区の「へき地教育」研究部会では研究テーマに「楽しみながら語彙力をつけるための学習指導の工夫」(副題:少人数の特性を生かして)とし、検証授業では、児童がこれまでに知っている語句や表現について引き出す学習活動が設定されました。各児童は既習の言葉を確認し、友達から紹介された言葉に触れながら多様な表現に出会い、語彙を増やし、その後の自己表現活動に生かしていました。

「小学校英語活動」研究部会では研究テーマを「児童が積極的に発言する機会を増やす授業の工夫」(副題:様々な場面を取り入れた英語活動を通して)とし、授業の中に意味のあるタスク活動を設定し、それを固定化することで児童が毎時間の活動の流れにとまどうことなく、見通しをもって活動に参加できるシステムを提案していました。

*研究内容の詳細は「へき地・複式学習実践資料第10集」に掲載します。



自己表現活動の様子



教育経営研修課

な作品が展示紹介されました。参観者より質問をされて、自分の作品について説明したり、日頃練習しているジャグリングを披露し、他の教室の児童生徒や担当者に手ほどきしている光景等も見られました。「他の教室の活動を写真で見たり、実際作った作品を見てすごいと思った。」「他の教室の作品を見ることができて良かった。」という感想が多く、また、全体活動(フィンガーペイントやトランプ等)も自分のペースで参加し、「とても楽しかった。次もやりたい。」という感想が参加した児童生徒から寄せられました。次年度も工夫・改善を図り、取り組みたいと考えています。



児童生徒の作品展示



特別支援教育に係る関係機関への支援状況

特殊教育課

特殊教育課の業務には、障害のある幼児児童生徒の保護者等を対象とした教育相談事業と学校（校内研修への講師派遣等）への支援事業があります。平成18年度は昨年度以上に学校や関係機関への支援が増加傾向にあることが顕著になっています。そこで、次年度から本格スタートとなる特別支援教育へ向けて、本課の今年度の関係機関への支援に関する現状を紹介したいと思います。

関係機関への支援の現状

（平成18年4月～19年2月現在）

昨年度の研修等の依頼は51件（校内研修等）で、校種も小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校及び市町村教育委員会と幅広い教育関係機関からの依頼がありました。

表1 特別支援教育に係る支援（講師、指導助言等）

支援等を行った関係機関	件数
幼稚園・小学校	25
中学校	23
盲・聾・養護学校	5
高等学校	8
各教育事務所	11
各市町村教育委員会	43
その他（校長研修会、外部研究会等）	28
計	143

今年度も表1に示すように小中高、盲・聾・養護学校に対する校内研修が合わせて61件と、内容も特別支援教育や軽度発達障害に関する研修がほとんどでした。その他の関係機関への支援件数も82件（市町村教育委員会主催研修会、コーディネー

ター養成研修、就学指導、巡回指導、指導助言等も含む）と内容も同様で、次年度に向け、学校や関係機関での支援体制への取り組みが早急な課題とされている事が窺えます。

障害児来所教育相談 （来所相談・電話相談）の現状

本課が毎年実施している障害児来所教育相談事業では平成14年度から平成17年度までの4カ年の傾向として相談件数が200件前後で推移しています。

表2 来所教育相談の年度別総数

年度	H14	H15	H16	H17	H18
件数	170	225	181	234	270

昨年度の相談件数は234件で回数にすると延べ31回、平成18年度は相談件数が270件、回数にすると380件と大幅に増加していることが分かります。

現在5名の主事で関係機関への支援や教育相談を進めているところですが、平成19年度からの特別支援教育の本格的な取り組みを推進させる為には、本課の業務の見直しや関係機関との連携をさらに密にして支援体制を充実させていく必要があると考えます。

第31回全国特別支援教育センター協議会沖縄大会の開催

全国特殊教育センター協議会は各県の特殊教育センター、又はこれに準ずる機関をもって組織され、現在57機関が加入しています。平成19年度から全国特殊教育センター協議会も「全国特別支援教育センター協議会」として新たな一步を踏み出す年となっています。協議会は年1回、総会・研究協議会を全国の7ブロックの持ち回りで全国大会として開催しています。平成19年度は九州ブロック沖縄県が第31回大会開催地として決定しており、その主管が沖縄県立総合教育センターとなっています。全国特別支援教育センター協議会の目的であるセンター相互の連携、特別支援教育の充実、振興を図るための取り組みを進めているところです。その沖縄大会が、平成19年11月8日、9日の両日、沖縄男女共同参画センター「ているる」で開催する予定となっています。1日目の全体会では文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長による講話や特別支援教育に関する記念講演、また、2日目は4分科会に分かれ、特別支援教育のネットワーク作りや支援体制、研修体系、調査研究、理解啓発の在り方等が協議される予定です。「特殊教育」から「特別支援教育」への転換という節目の年に、沖縄の地から新たな情報を全国へ発信することで沖縄県立総合教育センターにとって意義のある大会にしたいと考えています。



美ら島e-net(遠隔学習)システム

IT教育課

IT教育課では、離島・へき地地区におけるネットワークを活用した学習支援システム事業「美ら島e-net(遠隔学習)システム」の試験運用(平成19年度)、本格運用(平成20年度)に向けて構築を進めています。

本システムは、これまで当センターが提供していた沖縄県版学習評価支援ソフトを発展させた「学習管理システム」、電子メール、掲示板、ビデオオンデマンド、テレビ会議・ビデオチャットの機能を有する「コミュニケーションシステム」、当センターが活用を推進してきた「教育情報共有システム」を連携させた運用をしていきます。個人毎に学習履歴、メールや掲示板の進捗状況が表示されるサイト(ポータルサイト)を用意し、持続性のある学習環境で児童生徒をサポートしていきます。各システムへはポータルサイトから接続されます。以下に3つのシステムを紹介します。

○学習管理システム

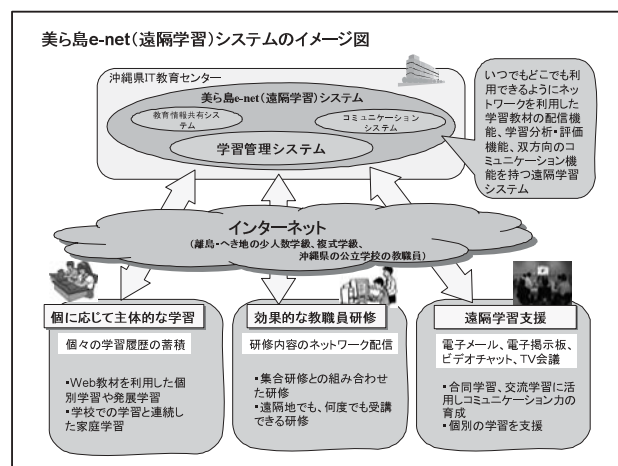
児童生徒がIT教育センターのシステムにアクセスし、教材作成支援ソフトを使って開発した学習教材を使い学習することができるシステムです。教師は学級単位や学習者個別に学習の進捗状況や理解状況、学習履歴等をリアルタイムに把握しながら指導ができ、児童生徒の学習活動、教師の教育活動を支援するシステムです。

○コミュニケーションシステム

電子メール、電子掲示板、ビデオオンデマンド、テレビ会議等の各機能を統合して児童生徒の学習を離れた場所から支援していくものです。特に、離島・へき地における児童生徒のコミュニケーション能力育成の機会を提供していきます。

○教育情報共有システム

美ら島e-net(遠隔学習)システムにおける教育情報共有システムは、学習管理システムで学習した内容の発展問題や、関連する写真やビデオ素材、より詳しく書かれた参考資料を蓄積し、児童生徒が主体的に活用し課題解決が行えるようにすることで、情報活用能力の育成を支援するシステムです。



教材開発一覧



IT教育課では、児童生徒の学力向上のための学習教材と学校の情報化を推進するためのシステムの開発を行いました。本年度作成された教材およびシステムは、以下のとおりです。

学習教材

- 「4学年わり算のひっ算」(小学校)
- 「5学年小数のわり算」(小学校)
- 「中学1年『方程式』」
- 「文英堂Surfing English Course II 準拠リーディング教材、インターネット・スバベンジャー・ハンティング」
- 「理科野外巡検ソフト」「野外巡検素材集」
- 「教室内LANを使った実習教材」(高校・情報)
- 「補助記憶装置の種類と変遷」(高校・情報)

- 「美術鑑賞教材『印象派への誘い』」(中学・高校)
- 「達成度テスト」(小・中学校)
- 「県立高校入学者選抜学力検査」

学校の情報化を推進するシステム

- 「小学校学習活動支援ソフト『ゆい』」
- 「中学校生徒情報管理システム」
- 「生徒情報支援カルテDBシステム」(中学校)
- 「生徒検索システム」(高等学校)
- 「個別指導計画作成支援システム」(特殊教育)

詳しい情報は、教育情報共有システム(www.open.ed.jp)で公開しています。どうぞご活用ください。

環境教育に取り組もう

理科研修課

全国的に様々な場面で環境問題が取り上げられるようになり、学校教育においても環境に対する認識を深めるために、学習指導要領において「環境教育」を児童・生徒へ指導するように求められ、それに基づき各学校では環境教育が行われています。しかし、学校現場では授業として、どのように取り組めばよいのか等、戸惑っている声も聞えます。その支援資料として、当総合教育センターホームページ理科研修課で環境教育に役立てる資料を掲載しています。また、沖縄県文化環境部環境政策課より「沖縄県環境教育プログラム(小学校、中学校、高等学校編)」が学校現場へ配布されています。環境教育を授業や特活、総合的な学習の時間に取り入れて活用できるようになっています。

当総合教育センターでは、学校現場で生かせる指導者への支援を目的に長期研修員を対象とした講座「環境学習」を開設し、演習を中心に実施しております。また、短期研修においても「小・中・高・特環境学習指導講座」を開設しております。受講対象者は小中高特の先生方40人で2日間の日程で実施しています。講座内容は、図1の通りです。アンケートによる講座の評価では、殆どの受講者から「かなり満足」「まあまあ満足」と回答があり、内容的に充実していたことが窺えます。

		内 容
1日目	午前	講演「地球温暖化と環境学習」 講師：温暖化防止推進センター 杉岡敦子氏
	午後	小学校、高等学校 事例発表
		環境教育の実践演習 野外実習の事前学習、意見交換
2日目	野外実習	蝶を用いた緑の環境診断
		沖縄の地質・土壌と植生の観察
		海岸漂着ゴミ調べ
		河川の環境調査

図1 「小・中・高・特環境学習指導講座」の内容(平成18年度)

受講者の感想でも、「講話、実習とプログラムが多いので充実した研修でした」「学校に持ち帰り子ども達と学習したい」など肯定的内容が多数

ありました。更に、受講者は小・中・高・特殊教育諸学校の先生方なので、校種を超えた意見交換ができ、環境教育に大切な「継続的な指導」に生かすことができます。

次年度は7月26日、27日に予定しています。先生方の積極的な参加を待っています。



緑の環境診断活動



爽やかな水の音（水車復活！）



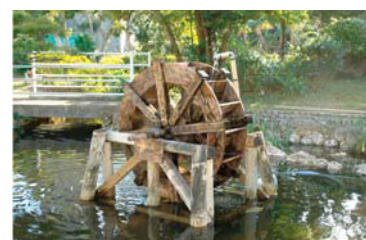
平成6年に理科研修課により水車が教材池に設置されました。リュウキュウチクの屋根と電線を巻くドラムを主体にした水車は、当総合教育センターの象徴的な構造物の一つとして所員や研修員等の気持ちを和ましてきました。その年度は、教材池や天体観測施設、多目的研修棟の竣工、樹木の追加植栽により、センター内が緑に囲まれた施設として、より充実をしてきた時期でした。しかし、ここ数年来は木材の腐蝕やベアリングの錆等もあり、回ることを拒む水車はメダカが泳ぐ教材池に水没をしていました。

そこで、9月に解体し、試行錯誤を重ね、2月22日に水車が完成しました。唯一、手本となった近隣のアイスクリーム屋の水車を参考として、簡単な設計図を作製し、週1回の作業日の設定と「センター友の会」からの資金提供を受けて、技

術実習室で製作に取り組みました。

理科研修課の課長をはじめ、個性あふれる面々による、それぞれの才能の発揮とチームワークの良さが水

車完成の原動力となりました。完成間際には、水車が回転しない場合は人力の想定？もしていましたがスムーズに回転し風情のある水車が完成しました。水車は、水の位置エネルギーを回転運動のエネルギーに変換させますが、当総合教育センターのエネルギーが、沖縄県教育の活性化エネルギーにスムーズに繋がり、大きな輪になることを期待しています。



完成した水車

新システム導入

産業教育課

産業教育課では平成16年度から平成20年度までの5年間で先端装置の導入が計画され、実施されてきました。今回は、本年度に導入された2システムについて紹介します。

■ 土壌・作物体検査学習、環境学習システム

本システムは、土壌微生物や作物体の微量成分について、検査・分析できる装置と詳細な環境分析をおこなう装置から構成されています。土壌微生物や作物体の微量成分を調べることにより作物の生育状況を総合的、科学的に判断できます。

また、大気や水質などの生活環境に関する要素を分析することで、身のまわりの環境を科学的に評価することができます。

主な機器と実習内容は以下の通りです。

- 1 「電子顕微鏡」による土中微生物、鉱物の観察
- 2 「赤外分光光度計」による有機肥料の分析
- 3 「イオンクロマトグラフィ」による水質分析
- 4 「キャピラリー電気泳動」による作物中の有機物分析

環境教育の推進が必要とされているなか、本システムは、環境保全に対する学習や研究にも有効であり、環境問題解決へ主体的に取り組む意識や態度の育成に役立つと期待します。

■ 次世代ネットワーク学習システム

ネットワーク基礎技術の学習からユビキタス社会に重要な役割を担うIPv6まで、ネットワークに関する技術を学習できるシステムです。次世代の情報通信ネットワークに関する知識と技術を習得させることが可能であり、最大20名の生徒実習が可能です。イントラネットを利用して、専門高等学校と総合教育センター間を接続し、e-Learningでネットワークの基礎を学習し、実際の機器を使ってネットワーク構築の基礎から応用までの実技演習ができます。本システム導入により、本県の専門高校生に対して、より応用的なネットワーク技術のレベルアップを図ることができます。



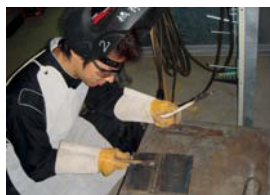
次世代ネットワーク学習システム

講座紹介

溶接検定対策講座

産業教育課 総合生産システム研究室

今年度の短期研修で「溶接技能講座」を開催した後、受講した職員の中から、「溶接技能者評価試験」を受験したいとの申し出があり、1月中旬に実施される



講座の様子

JIS Z3081 手溶接(アーク)のA-2Fの受験を目指すことになりました。JIS Z3081 手溶接(アーク)A-2Fは、被覆アーク溶接の基本級で下向き姿勢の裏当てであり、V形開先形状の板の突き合わせを行う評価試験です。この試験は、一般構造物の手溶接および溶接技能者の基本的な資格として適応される認証資格であります。今回は、受験者(2校5名の職員)を対象に本センターにて1月4日から時間をやりくりしながら5日間行いました。日程的に厳しい状況の中で、勤務後、1層から仕上げ層までの溶け込みを確認しながら繰り返し練習し、全員が合格しました。今後も教職員の技術向上に向けた講座の開設に向け、取り組みたいと思います。

後期特別講演会

元宮崎西高校校長で現在教育関係機関の顧問を務める宇田津一郎先生の後期特別講演会が平成19年1月17日に本教育センターで開催されました。演題は



講演中の宇田津先生

「教師の意識改革と学校改革～児童・生徒のより良い成長と発展のために教師に期待すること～」先生は自らの体験や豊富なデータを基に、教育への想いを、まるで一人一人の胸の内に語りかけるように熱く話し下さり、所員や研修員、外部からの関係者らで満員の講義室は緊張した熱気に包まれました。研修員のアンケートからは「自分自身にきびしくあるべきだと感じた」「身が引き締まる思いです」「教師の本気がすべてを変える。気合いが入りました。」「日本の未来を考えられる教育をめざしたい」などの感想が多数聞かれました。この講演で得られたものを共に活かすべく所員・研修員一同、沖縄の教育界にさらに貢献できるよう一緒にがんばっていききたいものです。



研修を終えて

本総合教育センターで前期・後期・離島長研・1年研修員総勢117名の先生方が各々の分野において研究活動に取り組んでくださいました。各課を代表して研修活動を振り返っていただきました。

教科研修課 社会研究室

県立那覇西高等学校教諭 **上原 匡孝**



我々研修員は、日々の研修において主事の先生方の親身な御指導とお互いの励まし合いにより、研究を全うしようとしています。特に、研修員同士の校種を超えた交流は、自らの教職経験に無かった他校種の児童・生徒、教育活動の様子を知ること、教員としての視野を広げ、各自の研究を深めることに繋がりました。今後は、教育センターで培った研究成果や絆を継続、発展させながら学校教育に邁進していきます。

特殊教育課 知的・情緒障害研究室

県立島尻養護学校教諭 **井口 政美**



相思樹の新緑と沢山の花々に迎えられ、研修が始まりました。私が好きな詩の件に「だれかがみだしておいたらだまってそろえておいてあげよう。そうすればきっと世界中の人の心もそろうでしょう。」があります。センターで同じ志の仲間と支え、学び合えた事は、とても貴重な時間でした。ここで得た事が子ども達の未来を創る糧となり、子ども達、そして仲間と未来と一緒に創造できるよう研鑽を積んでいきたいと思っています。

教育経営研修課 学年・学級経営研究室

金武町立中川小学校教諭 **山川 幸宏**



教育経営研修課において、半年間の研修は充実した日々を過ごすことができました。研修では、専門的知識の追究と多面的な視点の広がりを実感でき、また、他校種の先生方との交流や情報交換を通して、幼・小・中・高の連携の大切さを改めて感じ取ることができました。本研修では、ピア・サポートを通して児童同士が支え合える学級経営に取り組みました。研修で学んだことを教育実践で生かし、さらに先生方に還元できるよう努めたいと思います。

産業教育課 総合生産システム研究室

県立美里工業高等学校教諭 **塩浜 浄**



私は、2007年から数年間で団塊の世代の多くの先生方が定年退職をすることに危機感を感じ、本センターへは、技術のスキルアップを目的に応募しました。1年間の長期研修では、専門分野の技術習得をはじめ、多様な経験をさせていただきました。その結果、教師としての視野も広がり、今後の道筋が何となく見えてきた様に思います。この一年間の長期研修で習得した技能・技術を学校現場で活かせるよう日々取り組んでいきたいと思っています。

理科研修課 技術研究室

宜野湾市立真志喜中学校教諭 **高江洲 昌人**



教科の勉強がしたいという思いで応募した長期研修でした。教職10年目を目の前にして、センターでの様々な研修は、教科に対する考え方、生徒のとりえ方を見直すよい機会となり、生徒の前に立つ教師として、大人として、幅広い経験をさせてもらいました。

研修の中で、理科研修科の主事の方々には、厳しさの中にも丁寧なご指導を頂き、また、同僚である研修員にも恵まれ、充実感と感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

IT教育課 コンテンツ開発

うるま市立中原小学校教諭 **石川 節男**



IT教育課は充実した施設が整い、一人一人に十分な機器が与えられ恵まれた環境の中で研修を行うことができました。それにより今日求められているIT活用力が向上しました。また、IT研修員は小・中・高・特殊教育諸学校の様々な校種から集まった先生方とお互い情報交換を通して、熱く語り合い児童生徒を見る視野を広げることができました。1年間という貴重な時間を与えられ、私自身のこれからの教員生活をおくる上で、多くの素晴らしい財産を得ることができました。